

再意見提出フォーマット

再意見提出者	住友電気工業株式会社
--------	------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のシステムについてご回答される場合は別々にしてフォーマットに記入してください。
（できるだけイメージ図等を加えてください。）。

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
15	株式会社 Big Picture International	「ITS の開発は非常に初期の実験段階にあり、900MHz 帯のような別の周波数に動かしやすく、・・・（以下省略）」とありますが、本年 6 月 22 日に高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部から公表されました「新たな情報通信技術戦略 工程表（案）」では、事故対策として、2012, 2013 年頃の「安全運転支援システム」向けインフラ整備の推進等があげられており、ITS の開発はこの工程に沿って、官民一体となって進められています。ITS での利用が検討されている 700MHz 帯 ITS 無線システムについても、2007 年 6 月の「VHF/UHF 帯における電波の有効利用のための技術的条件」に関する情報通信審議会からの一部答申以降、伝搬特性等の基本調査、方式検討がほぼ完了し、現在はシステムが決定されつつある段階と認識しております。このような現状で、本意見にある周波数の移動を実施した場合には、これまでの調査及び検討の再実施が必要となることから、ITS 無線システムを用いたインフラ整備は、「新たな情報通信技術戦略 工程表（案）」に示された工程の実現が困難になると考えます。
40	クアルコムジャパン	「現在予定されている 715-725 MHz への割当を見直す。国際的に広

	株式会社	く使われている 5.8-5.9GHz 帯への移行を検討する。」とありますが、事故対策として期待される ITS（安全運転支援システム）は、日本において交通事故が比較的多い、交差点や見通しの悪い道路等に整備されることが予想され、このような場所においては、アンテナ間の見通しの確保が難しく、常に高い通信品質を得るためには、直進性の強い 5.8-5.9GHz 帯でなく、回折特性に優れる 700MHz 帯を用いて実用化することが重要と考えます。
58	日本エリクソン株式会社、 ノキアシーメンスネットワークス株式会社、ノキアジャパン株式会社、ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ株式会社	「現在予定されている 715-725 MHz への割当を見直す。国際的に広く使われている 5.9GHz 帯への移動を検討する。」につきましては、上記の No. 40 に対する意見内容と同様です。